

システムモデル検討作業部会 の検討の概要

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムモデル検討作業部会
相原雪乃（名古屋大学）



我々をとりまく動向・背景

- 電子情報資源の普及により、学術情報の流通・管理のあり方が大きく変革
- 研究者や学生の情報利用、研究・教育のプロセスが電子的手段を前提
- 新たな役割の実現に向けた人的資源の再配置や、業務の一層の効率化

システムモデル検討作業部会とは

これからの学術情報システムの在り方について
(2019) (2019年2月15日)

- 次に取り組むべき課題

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築

- ⇒ システムワークフロー検討作業部会

- (2) 持続可能な運用体制の構築

- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

- ⇒ システムモデル検討作業部会

モデル部会のミッション

1. 運用モデル・体制に関する検討
2. 共同調達・運用に関する検討

- 図書館システム・ネットワークを誰がどのように運用するのかを整理する
- 図書館システム・ネットワークを運営するための持続可能な枠組みおよびコスト負担等について検討する
- 図書館システムの共同調達・運用のプロトタイプ、課題等について検討する

図書館システム・ネットワーク = 共同利用システムと各大学図書館等の図書館システムを有機的に結合した学術情報システム基盤

何故、新たな運用モデルが必要か

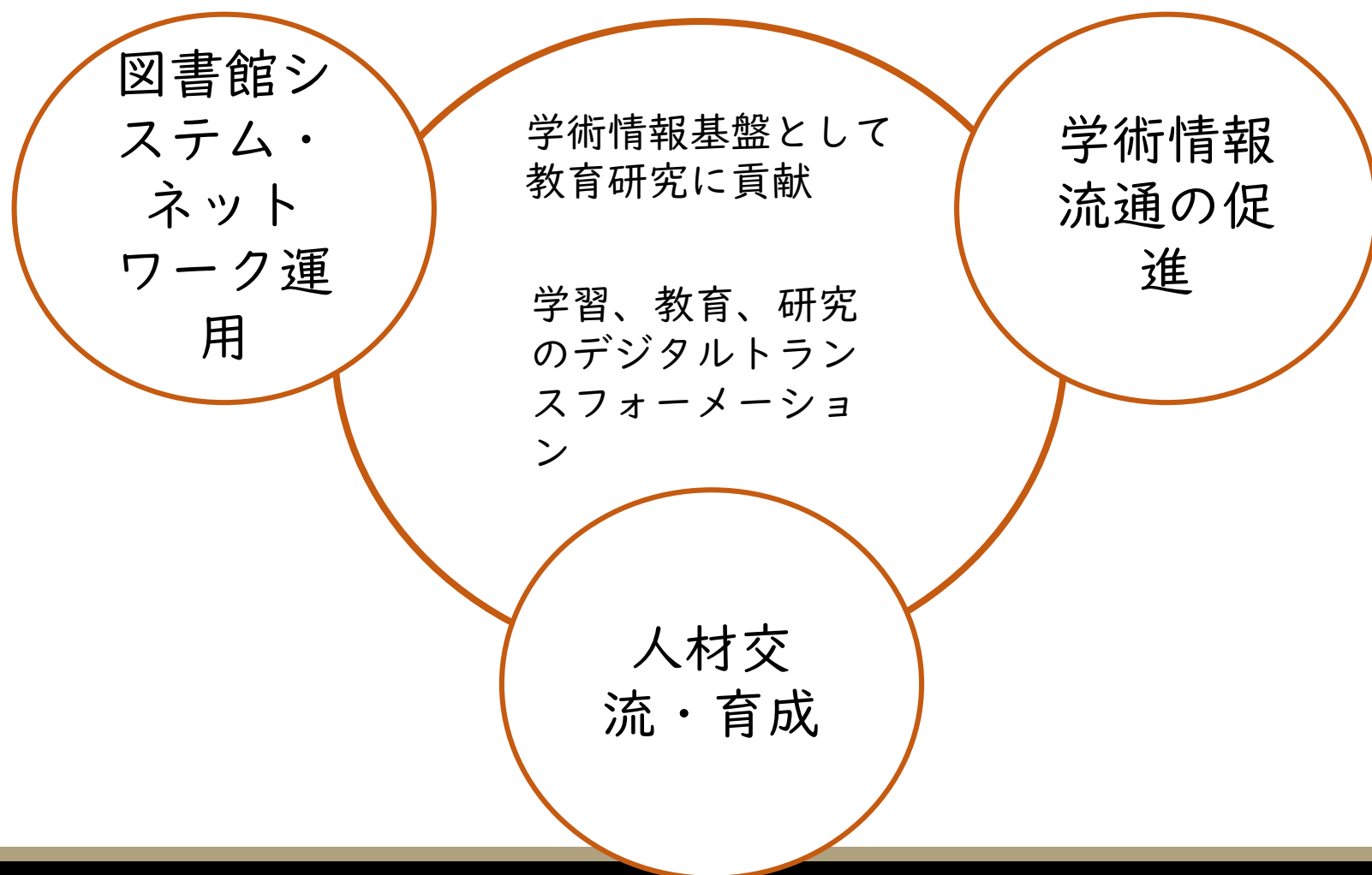
- 今までと事業モデルが違うため
DB構築 ⇒ 利用者の情報発見支援強化
- 一機関だけでは運用できないため
効率化・高度化・国際化 etc. への人材・コスト
- NIIだけでは運用できないため
大学の「ニーズ」が必要

NIIとは役割分担をしながら 自分たちの業務を自分たちの手で遂行

運用モデルの提案

- 第22回連携・協力推進会議（2021年7月）で、運営組織体の設立を提案
- 様々なご意見をいただいております、運営組織体の設立は再検討中
- これから委員会が上記提案でまとめた目的や役割について、改めて紹介します。

運営組織体の目的（概要）



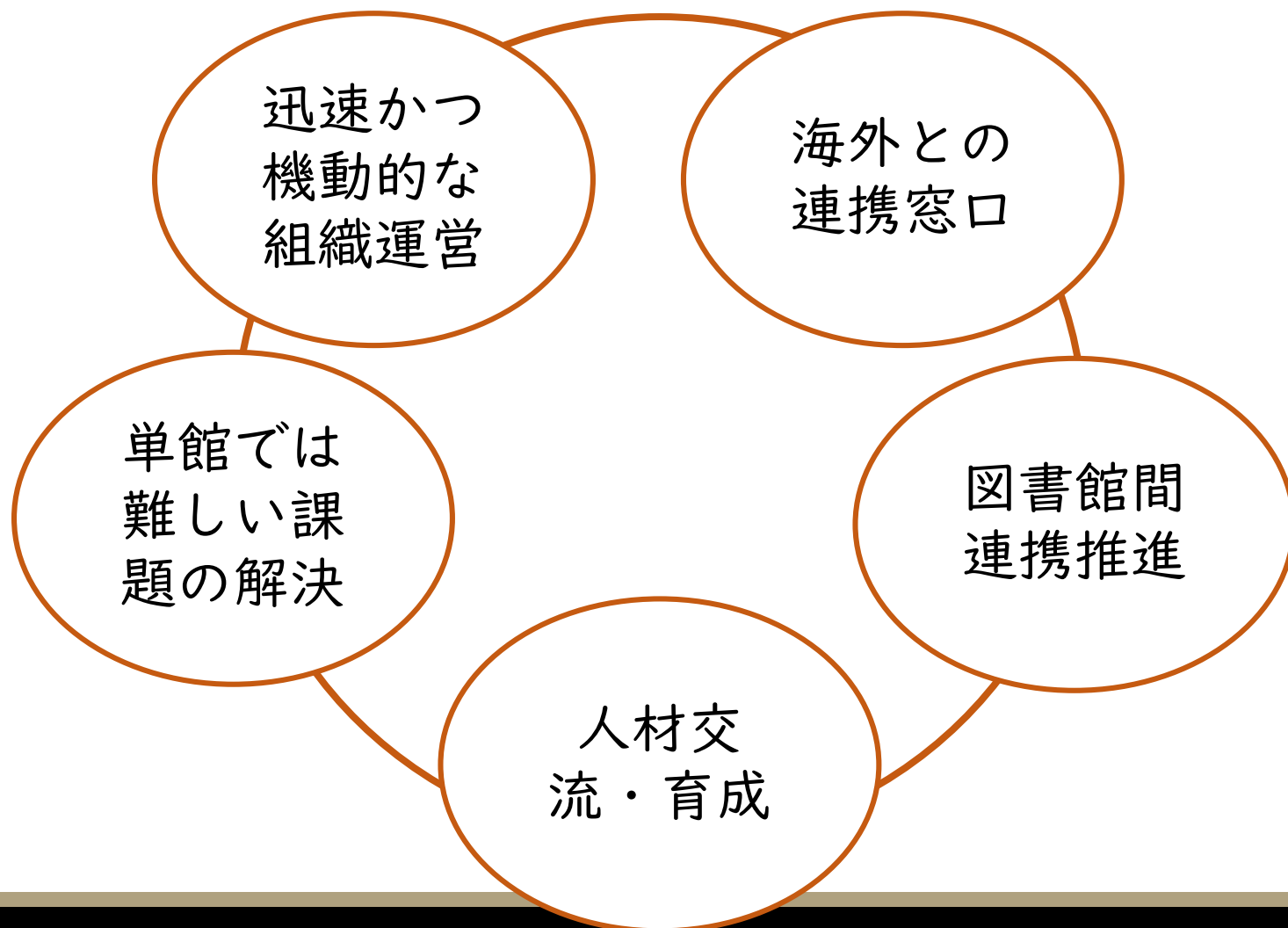
運営組織体の目的（1/2）

- Ⅰ. 図書館システム・ネットワークを運営し、我が国の学術情報基盤として教育研究に資する。
 - 各機関の図書館システムによる業務の効率化・高度化を支援し、図書館システムの共同調達、共同運用に係る情報共有と相互扶助を行う。
 - 共同利用システム（目録所在情報サービスを継承するもの）を共同運営し、国際的な標準やデータ互換の体制を維持、発展させる。

運営組織体の目的（2/2）

2. 学習、教育、研究のデジタルトランスフォーメーションを含む学術情報流通を促進する。
 - メタデータを共有し流通する仕組みのさらなる充実を図る。
 - 国際的な連携を含めた統合的な学術情報資源の発見とアクセスの環境を実現する。
3. 図書館システム・ネットワークの運営に伴う人材の交流と育成を行う。

運営組織体の役割（概要）



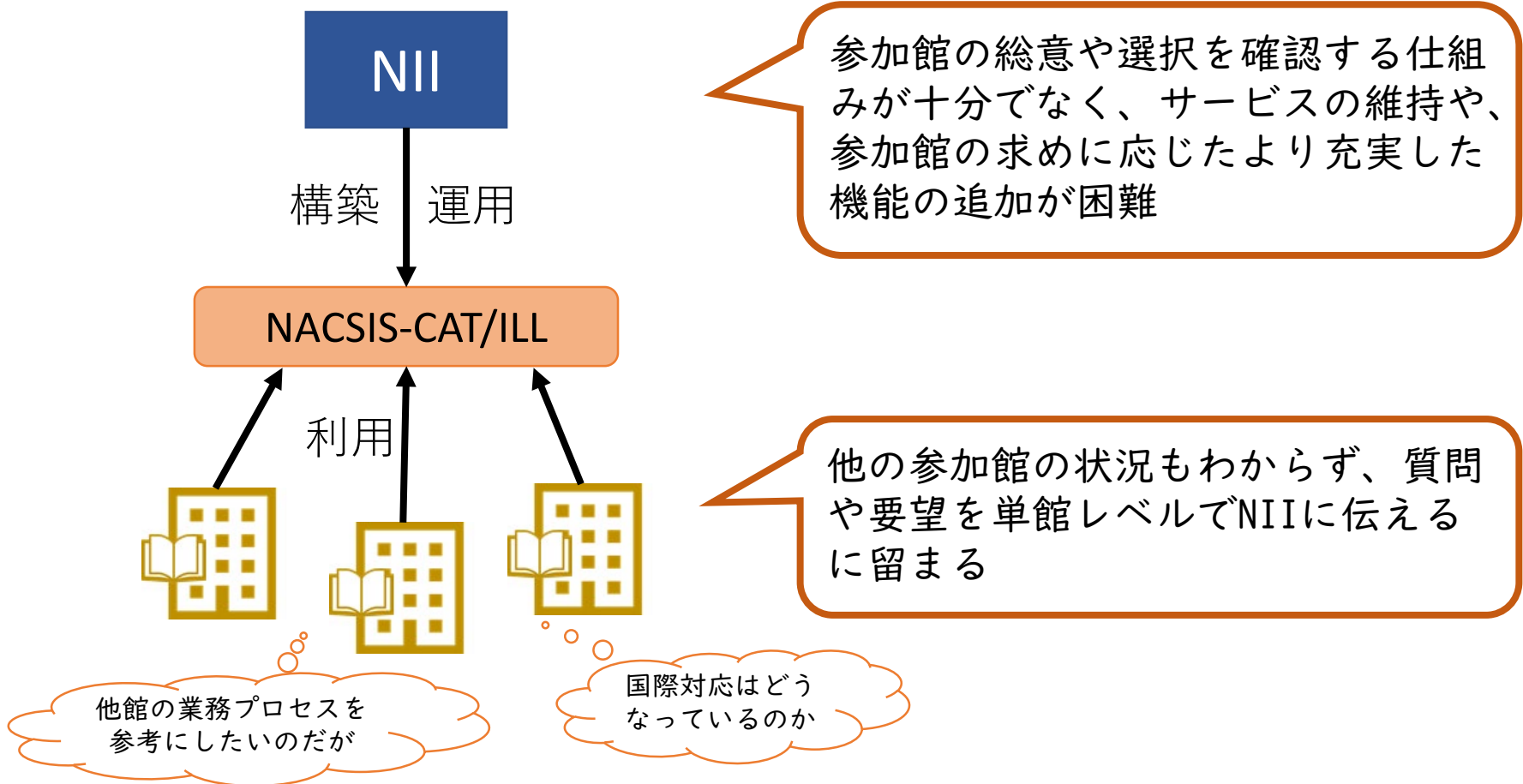
運営組織体の役割（1/2）

1. 図書館システム・ネットワークを社会情勢に合わせて迅速かつ機動的に運営できる組織体制をつくること
2. 図書館システム・ネットワークを共同で管理、運用することで、単館では成し得ない課題を解決すること

運営組織体の役割（2/2）

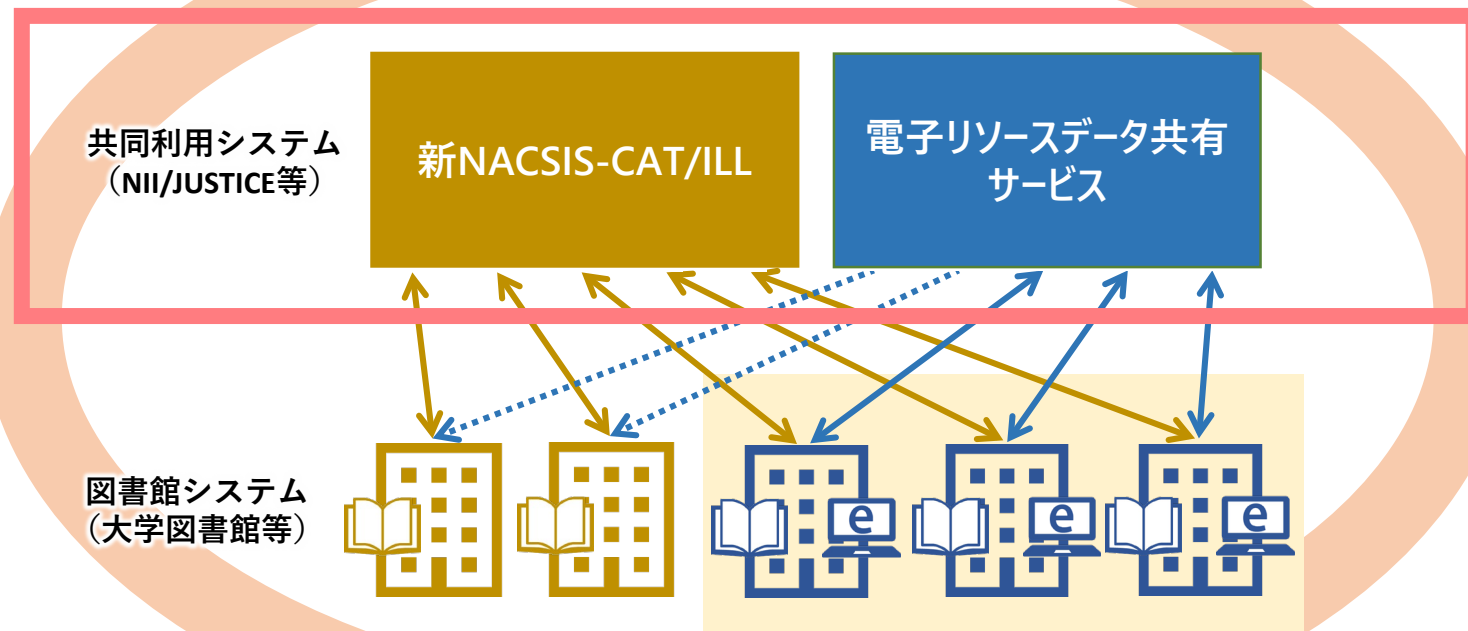
3. 国内の学術情報システムの基盤構築および運用にあたりとともに、海外の学術情報システムとの連携の窓口となること
4. 様々な背景を持つ図書館が主体的に協会の運営に携わることで、図書館システム・ネットワークのありようを多角的に検討し、システム面でも制度面でも分野や規模を超えた図書館間の連携を推進すること
5. 機関・組織の枠を超えて人材の交流および育成を図ること

2021年現在



学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを2022年から順次運用開始

図書館システム・ネットワーク（大学等）



コミュニティの形成

コミュニティの形成

- 同じシステムを使って、同じ目標に向かって
いる
 - 悩みも似通っている
- な・ら・ば
- 相互に連携しあわない手はない
 - まずは、情報交換・意見交換ができる場を作
りたい